

第5学年家庭科「一枚の布から思いを紡ごう ～ミシンで楽しくソーイング～」

学習指導者 阿部 聡子

手縫いやミシン縫いした身の回りの物を観察したり、教師がミシン縫いを示範したりすることで、それぞれの縫い方のよさに気づき、ミシンを使って製作したいという思いを高め、「ミシンを使って生活に役立つ物を作ろう」と題材の目標を設定しました。生活に役立つ物(ランチョンマット・箸袋)の製作に必要な縫い方を選択し、ペアと縫い方のポイントを考えたり、確認し合ったりしました。

ミシン縫いを練習して、ミシンマスターになろう

【見通し】

題材計画表から、生活に役立つ物を製作するためにこれまでミシン縫いを練習してきたことを確認しました。そして、前時の学習から「よりよい製作物を作るために、もっと直線縫いや角縫いがきれいに縫えるミシンマスターになりたい」という思いをもっていたことを想起し、本時の学習課題を設定しました。その後、直線縫いや角縫いをする時には、前時までの縫い方のポイントを使ったり、ペアで縫い目を確認したりし、縫えていない時は縫い方手本などを手掛かりにするとよいなどの解決の見通しをもちました。



【行動】

レベルアップしたい縫い方(直線縫い・角縫い)と理由を伝え、交代でミシン縫いを行い、縫っていない時はチェックリストを用いながらペアの縫い方の順番を見て、ミシンマスターになれるように確認しました。縫い目を見て、角が上手く曲がれなかった時には、「角の手前で止まると角に針が刺せるからピタリ止まれるよ」などアドバイスをしたりしながら、自分の課題解決を行ったり、難易度の高い練習コースを時間いっぱい繰り返し練習しました。



【振り返り】

チェックリストを用いて、「できたこと・気付いたこと」「友達から学んだこと」について振り返りました。一緒に活動したペアに今日の活動を通しての自分の成長やペアのよかった点を伝え合うことで、「直線縫いがずれていたけれど〇〇さんに手の置く位置を教えてもらってやってみると上手に縫えるようになったよ」など友達と協働することでミシン縫いが上達できたことを実感しました。また、友達の課題解決に自分のアドバイスが役立っていることも実感しました。



成果と課題

○ペアの友達とミシン縫いをしたり、練習したい縫い方を選択したりし、繰り返し練習できる場を設定したことで、初めはミシン操作に不安を感じていた子供も安心して活動する姿が見られた。

▲振り返りの際、自分の縫い方の課題が解決できたかを表出させる必要があった。チェックリストの項目を精選したり、視覚的にも分かりやすいものに工夫したりすることでさらに縫い方のポイントを押さえることができたのではないかな。